

# Publications about the Tang-style tombs in Mongolia

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-05-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: OTANI, Ikue メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00061900">http://hdl.handle.net/2297/00061900</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



Borovka G. I.: Боровка Г. И., 1927, Археологическое обследование среднего течения р.Толы, Северная Монголия II (Предварительные отчеты лингвистической и археологической экспедиций о работах, произведенных

в 1925 году), Л: Изд-во АН СССР: 43-88. [「トーラ川中流の考古学調査」『北蒙古II』(1925年に実施された言語学・考古学學術調査団の活動に関する事前報告)]

<研究動向>

モンゴル国の唐様式墓に関連する出版物

モンゴル国で発掘調査された2基の唐様式で造営された洞室墓の研究状況は、上掲村上論文がまとめている通りである。特にザーマル古墳は墓誌が出土し、モンゴルのみならず日中両国でも歴史学からの検討が進んでいる。それら研究については上出村上論文の引用・参考文献をたどることできるのでここではあえてそれらには触れず、両墓に関連する考古関連出版物をいくつか紹介しておきたい。

まず、両墓に関する基礎資料となるのは、2013年に刊行された発掘調査報告書である(図1, 2)。一見書名が同一のため紛らわしいが、副題で識別でき、共に発掘の過程と出土遺物の全てが報告されている。遺物については線描図と写真の両方が掲載されているものの、より鮮明な写真の公表が待たれていたところに刊行されたのが図3である。モンゴル国の文化遺産をシリーズ化したカタログのうちの第VII冊にあたる。現在のところ、該当書以上に鮮明に撮影された写真を網羅的に掲載した書籍はない。そして、最後に挙げるのが図4書籍である。ウイグルの考古遺跡研究として編まれているが、実際には7~9世紀の遺跡を取り上げており、下篇の2章分が両墓に割かれている。該当時期の遺跡の調査状況が把握できるので、参考のために目次を訳出し、作成した図6を付す。

『モンゴル国に所在するウイグルの考古遺跡』

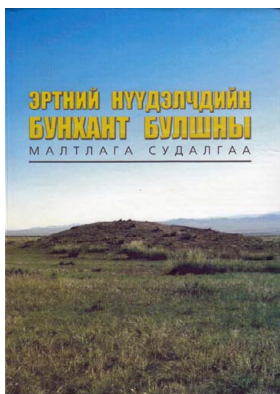
A. オチル・Ts. オドバートル・

L. エルデネボルド・B. アンフバヤル

目次:

序..... 5  
 前篇:  
 ウイグルの考古遺跡 ..... 7  
 1.1. 城址 ..... 7  
     ①ハル・バルガス ②ハラート城址(ハラート - I  
     ツァガーン・スミン・バルガス ④ビー・ボラク城址  
     ⑤チレン城址 ⑥バルガスイン・ホンドの城址  
     ⑦ゲゼグ・ブルド城址 ⑧ドノイ廃墟址  
     ⑨シャリランギーン・ゴル城址 ⑩オルホン  
     城址 ⑪フルミーン・ウズール城址 ⑫  
     フフ・エルギーン・バルガス  
     フフ・エレグ城址 ⑬ルン城址 ⑭チン・トル  
     ゴイ城址(可敦城) ⑮ヘルメン・デンジ城址  
 1.2. 陵墓と一般の墓の分布、外部構造、施設.....52  
     a)フルヒーン・アムの方形施設群 b)ホンディ  
     ン・ホーロイの方形施設群 c)ウブルハブツアリ  
     ン・アムの方形施設群 d)ヒルギスーリーン・ア  
     ムの方形施設群 e)ドガナ・ウズールの方形施設  
     群 f)チャンダガニ・アムの方形施設群 g)オロン  
     ドフ h)ジャール・トルゴイの方形施設 i)サン  
     ティン・ボンドゴル

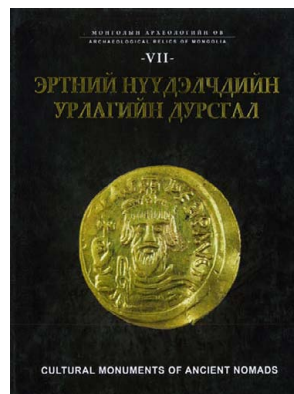
(80頁につづく)



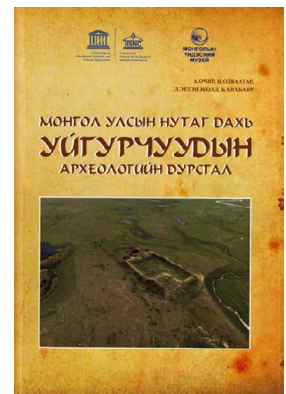
1. オラーン・ヘレム 壁画墓発掘調査報告書 [Ochir, Danilov ほか 2013]



2. ザーマル古墳(僕固乙突墓) 発掘調査報告書 [Ochir, Erdenebold ほか 2013]



3. 古代遊牧民の文化遺産 [Chuluun, Tsebeendorj 編 2017]



4. モンゴル国に所在するウイグルの考古遺跡 [Ochir ほか 2019]

(SEM/EDX) багажийг тус тус ашиглалаа. Судалгааны үр дүнд No.1 дээжийн ногоон хэсгээс атакамайт ( $Cu_72Cl_4(OH)10 \cdot H_2O$ ), No.3 дээжийн улаан хэсгээс мөнгөн усны хүдрийн будаг ( $HgS$ ) тус тус илэрч, суурь давхарга нь кальцит ( $CaCO_3$ ) болох нь тогтоогдов.

モンゴル国スフバートル県トウブシンシレー郡  
に所在するイフ・ボラギーン・ウンドウル・ド  
ブジョー遺跡で発見された壁画材料の分析

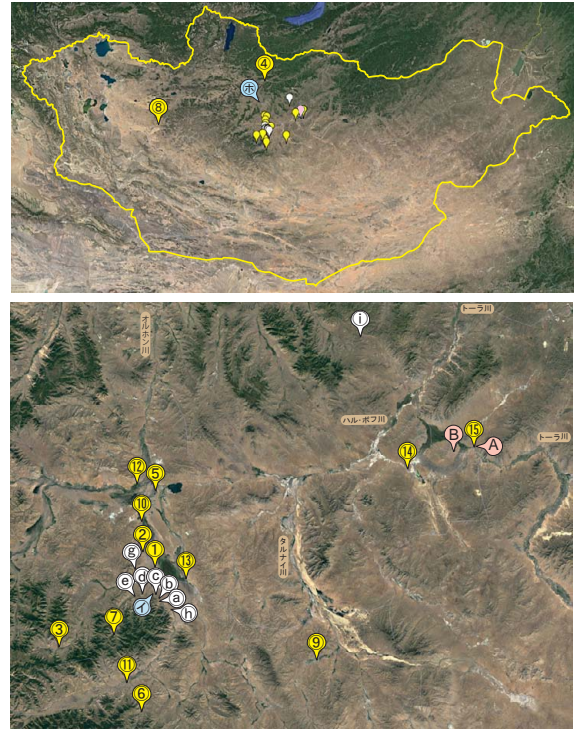
オドフー アンガラグスレン  
(京都大学、大学院人間・環境学研究科)

高妻洋成  
奈良文化財研究所

モンゴル科学アカデミー歴史学・考古学研究所と大阪大学は「東部モンゴルの突厥期の歴史・考古学研究」プロジェクトに基づき、スフバートル県トウブシンシレー郡にあるイフ・ボラク川の石築基遺跡（ドブジョー (Dovjoo)）を発掘した。本研究は発掘中に発見された壁画サンプルに対して顔料と材料の分析を行ったものである。分析は光学顕微鏡、蛍光X線分析 (XRF)、X線回折分析 (XRD)、走査型電子顕微鏡観察 (SEM) の手法を用いて壁画材料の同定を行なった。分析の結果、サンプル No.1 の緑色部分からはアタカマイト ( $Cu_72Cl_4(OH)10 \cdot H_2O$ ) が、サンプル No.3 の赤色部分からは水銀朱 ( $HgS$ )、漆喰層からはカルサイト ( $CaCO_3$ ) が検出された。

(67 頁よりつづく)

1.3. 石造物	82
・ボフモロンの石人	
・エルデネゾーの2体の獅子	
・チン・トルゴイの2基の亀趺	
・ビー・ボラクの2体の獅子	
下篇：	
ウイグルの考古遺跡の発掘調査、研究	93
2.1. 方形施設群	93
・方形施設群の構造、構成	
・陵墓の出土遺物	
・埋葬儀礼	
・文字のある資料	
2.2. ザーマルの古墳	137
2.3. オラーン・ヘレムの古墳	158
2.4. オロン・ドフ	187



5. 言及されている遺跡

A: ザーマル古墳 (僕固乙突墓) B: オラーン・ヘレム壁画墓 (①~⑮, ①~⑩, ①, ②は目次記載遺跡に対応。③は②、④は①、⑤は③付近か範囲内。⑥は不明)

2.5. 祭祀施設、宗教信仰

2.5.1. 祭祀施設	199
①バヤンツォグトの遺跡	
②ホンディン・ホーロイの第3号方形施設	
③ヒルギスィーン・ホーロイの第6号方形施設	
④ドガナ・ウズールの方形施設群	
⑤オルゴート・オールの方形施設	
2.5.2. 信仰	266
結語	299
参考文献	249
付録図版	261

参考文献：

Chuluun S., Tsebeendorj D. [ed]: Чулуун С., Цэвээндорж Д. [ред], 2017, *Эртний нүүдэлчдийн урлагийн дурсгал (Монголын археологийн өв, боть VII)*, УБ. [Cultural Monuments of ancient nomads (Archaeological relics of Mongolia, vol.VII)]

Ochir A., Odbaatar Ts., Erdenebold L., Ankhbayar B.: Очир А., Одбаатар Ц., Эрдэнэболд Л., Анхбаяр Б., 2019, *Монгол улсын нутаг дахь уйгурчуудын археологийн дурсгал*, УБ.

なお、図 1,2 報告書の書誌情報は村上論文参照。(大谷)